



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2001.10月号



中原日枝神社例大祭

9月15日、中原日枝神社の祭りを民俗探訪会の会員とともに見学してきました。この祭は上宿・中宿・裏宿・御殿・下宿の5町内から山車が出るのが特色です。圧巻は、夕闇迫るなか、天清御酒所前で行われる太鼓の揃い打ちで、5台の山車による迫力満点の太鼓演奏が繰り広げられました。

それぞれの山車やお囃子には少しずつ特徴があります。上宿の囃子は笛が伴い、中宿は大正時代に製作された古い山車が引かれ、裏宿は艶やかな若い女性たちが太鼓を叩いて見物人を惹きつけていました。いずれの山車も花笠が飾り付けられ、夜になると提灯がともります。揃い打ちが終わると、神輿を先頭に旧伊勢原街道を日枝神社へ向けて渡御し、19時30分頃に宮入りしました。

山車を引く祭りはかつて市内各所で行われていましたが、戦後は交通事情により次々に廃止され、今も渡御するのは日枝神社くらいになりました。そうした意味で貴重な祭りです。祭りは、人々の絆や、神との一体感をあらためて感じさせてくれます。祭囃子の音を耳にしたら、ちょっと足をのぼしてみませんか。たくさんの祭を見比べていくと、土地柄を反映するのか、御輿の担ぎ方や宮入の仕方ひとつとってもそれぞれに特色があることが分かります。興味も増してくることでしょう。

なお、民俗探訪会は、現在「相模の祭と年中行事」をテーマに掲げ、県内の主立った祭礼や民俗芸能の見学を行っています。つとめて市内の伝統行事も調査記録するように心がけています。皆さまも地元の祭に関する情報を博物館へお寄せください。

博物館実習を終えて

昭和53年度から始めた、博物館実習生の受け入れは本年度で23回目を迎えました。生まれた子が23歳、社会人になったと思えば感慨無量の感があります。よくぞ、ここまでやってこれたと実感しています。それは、一人でも多くの学芸員を世に送り出す手助けをしたいとの思いがあるからだと思います。そのためにも、実習生を積極的に受け入れ、カリキュラムも独自に作り上げ、学芸員の基本的な仕事を実習生に体験させています。本年度も9月12日～20日までの7日間、15大学16名の実習生を受け入れ、下記の日程・カリキュラムを実施しました。

- 9月12日 平塚市博物館の概説、グループ討議
- 9月13・14日 資料整理
- 9月15日 普及事業参加（民俗探訪会）
- 9月18～20日 展示製作（郷土玩具資料を使って）



民俗探訪会で、中原御殿の解説を行う実習生

将来、学芸員の道を進む人は少ないようですが、この1週間で体験したことを、実社会で生かしてくれればと思います。また良き博物館理解者として博物館活動に参加し、さらに周囲の方に博物館を啓蒙していただけたらと思います。

なお、郷土玩具をテーマにした展示製作「おもちゃになった動物たち」を10月31日まで開催しています。資料は、夕陽ヶ丘の故近野毅氏から寄贈された全国各地の郷土玩具で、膨大な数のコレクションのうち動物をモチーフにあしらった玩具を選んで展示しました。展示には実習生らしい工夫が各所に見られ、中にはキラリと光る展示手法がありますのでぜひ皆様に見ていただきたいと思っています。
(実習担当：明石・浜野)

展示制作中



少し敷居が高く感じられる博物館にみんなが気軽に足を運べるようになればいいのに・・・という想いから大学で博物館について学び始めた。私がここで経験したことは学芸員の仕事のほんのごく一部だけど、学芸員をよく知った気がする。毎日が発見の連続で1日の日誌に書ききれないくらい。議論が進まず、また、進んでも対立して先が見えなかった企画展示。バラバラだった動物たちが1つの展示ケースに並んだ時は、気がついたら自分の主張を

展示にこめていた。展示する1種類の動物について自分で解説文を書き、その動物の置く位置を考えられたことは、自分の中で納得のいく展示になったように感じる。ここ平塚市博物館が地域に根ざした博物館であることは実習でよく見えたが、日枝神社の御輿の後をついて歩いたことで、地域の博物館とは何か？じっくり考えた。充実した毎日を送ることができて実習が終わるのがさみしい。私達のやりたいように気長に見守ってくださった先生方、どうもありがとうございました！
(実習生：長廣智子)



完成した展示の前で

アンドロメダ銀河

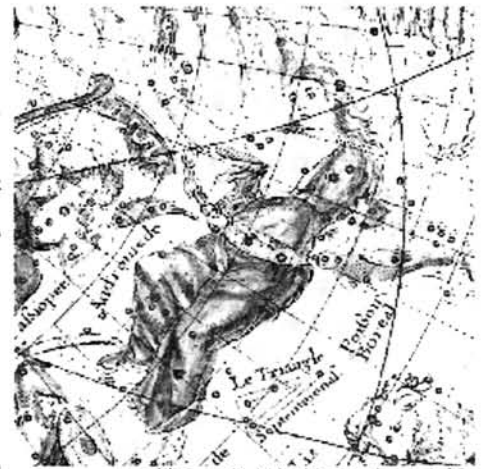
10月13日～12月2日

秋の星空は、天の川が北西から南西に流れ、東の空に秋の星座が並んでいます。天頂近くには天馬の星座ペガスス座の4つの星が四辺形をつくりますが、これを秋の四辺形と呼びます。その北東の隅の星から北東にのびる星の列があります。アンドロメダ座です。アンドロメダは古代エチオピアの王女ですが、星座絵にみる姿は、ティアマトという化けクジラのいけにえにされ、鎖でつながれた姿です。

アンドロメダの神話の世界から、宇宙の彼方に目をやると、この星座の中に、目でもぼんやり見える大銀河があります。アンドロメダ銀河です。私たちの銀河系の二倍といわれる銀河は、宇宙の本当の姿を理解する上での一里塚にもなりました。

アンドロメダ銀河

アンドロメダ銀河の位置は、アンドロメダの右腰のあたりになります。ペガスス座のへそにあたる星、アルフェラッツがアンドロメダの頭の星になり、そこから3つの2等星がほぼ同じ間隔で北東にのびています。2番目の星から北に二つ星をたどると、そこに淡いだ円形をした雲上の光を見つけさせます。それが目で見える最遠の天体、アンドロメダ銀河です。



鎖でつながれたアンドロメダ

銀河系の内か外か

アンドロメダ銀河が私たちの銀河系（天の川銀河）の外にある天体だ、ということがはっきりわかったのは、1920年代後半のことでした。

それまでは、これは、というはっきりとした証拠がだされないまま、いろいろな説が出され、呼び方もアンドロメダ星雲と言われていました。

このようなもやもやした天体は雲のようなものが銀河の中に浮かんでいるものだ、とか、星の集団を含む雲状天体だとか、言われてきましたが、アンドロメダ星雲中に新星がいくつも発見されて、その明るさと銀河系内の新星の明るさの比較がされたりするうちに、かなり遠いのではないか、という説が出るようになってきました。



M31アンドロメダ銀河

そして、1920年代にはいと、アメリカ、ウイルソン山に口径250cmの世界最大の反射望遠鏡が建設され、これらの疑問が一気に解決されることになりました。

この望遠鏡はそれまではっきりとしなかったアンドロメダ星雲の星々がはっきりとひとつずつに分けてみられたのです。そしてその中に、セファイドと呼ぶ変光星をいくつも見つけました。

変光星の明るさから距離が見積もられました。50万光年。このとき、アンドロメダ最雲は銀河系の外にある星の集団、アンドロメダ銀河として認識されたのです。

200万光年

その後、正確な測定やもっと大きな望遠鏡の登場でアンドロメダ銀河までの距離はもっと遠ざかり、いまでは200万光年という距離にあること、M33さんかく座の銀河などと局部銀河団を作っていること、銀河系にだんだん近づいてきていることなどがわかってきました。

そして、アンドロメダ銀河の距離を計った手法はもっと遠くの銀河にまで応用され、宇宙全体の広さを測る物差しとして使われるようになりました。最近の観測結果からアンドロメダ銀河はいくつかの小さな銀河を吸い込み成長してきたことが明らかにされてきました。このことは銀河という天体が相互に影響しながら進化していることを表しています。

博物館カレンダー

＜平成13年10月＞

3	水	民俗探訪分科会「社寺調査」	横内
4	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
5	金	古文書講読会	講堂
6	土	○考古学入門講座「地域の考古学」	講堂
		○体験学習「星座早見盤を作ろう」	科学室
7	日	民俗探訪会「寄木神社祭礼」	大神
		水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
11	木	石仏を調べる会	特研究室
12	金	古文書講読会	講堂
13	土	◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		☆プラネタリウム「アンドロメダ銀河」(~12月2日)	プラネ室
14	日	○特別展記念連続講座「東海道」	大磯
		地質調査会	野外
17	水	民俗探訪分科会「社寺調査」	大神
		裏打ちの会	科学室
18	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
19	金	古文書講読会	講堂
20	土	○考古学入門講座「地域の考古学」	講堂
		地質調査会	科学室
		天体観察会「オリオン座流星群」(~21日)	天文台
21	日	◎ろばたばなし	展示室
25	木	石仏を調べる会	特研究室
26	金	古文書講読会	講堂
27	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
		○こども観察会「10月の自然」	野外
		◎星を見る会「月を見よう」	屋上
		天体観察会「二重星」	屋上
		プラネタリウム番組を作る会	プラネ室
28	日	古代遺跡を探索会「分布調査」	土沢
		相模川の生き立ちを探索会「二子山と駒ヶ岳」	箱根町

＜平成13年11月＞

1	木	☆奇贈品コーナー「箱根火山展」(~11月29日)	展示室
		展示解説ボランティアの会	特研究室
2	金	古文書講読会	講堂
3	土	☆秋期特別展「二宮大磯平塚を結ぶ道」(~12月23日)	特研究室
4	日	民俗探訪会「村境の大わらじを訪ねる」	戸塚区
		水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
7	水	民俗探訪分科会	特研究室
8	木	石仏を調べる会	特研究室
9	金	古文書講読会	講堂
10	土	○考古学入門講座「地域の考古学」	講堂
		◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
		☆プラネタリウム「しし座流星群」(~11月18日)	プラネ室
		◎星を見る会「しし座流星群案内」	屋上
		天体観察会「しし座流星群案内」	屋上
11	日	地質調査会	科学室
15	木	展示解説ボランティアの会	特研究室
16	金	古文書講読会	講堂
17	土	地質調査会	野外
18	日	○特別展記念連続講座「東海道」	講堂
		◎ろばたばなし	展示室
21	水	民俗探訪分科会	特研究室
		裏打ちの会	科学室
		○宇宙を学ぶ会	プラネ室
22	木	石仏を調べる会	特研究室
24	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研究室
		○考古学入門講座「地域の考古学」	講堂
		プラネタリウム番組を作る会	プラネ室
25	日	古代遺跡を探索会「バスツアー」	栃木県
		相模川の生き立ちを探索会「鎌ヶ岳と七沢石」	厚木市

＜展示とプラネタリウム＞

☆奇贈品コーナー「おもちゃになった動物たち」
期 間：10月30日（火）まで

☆プラネタリウム
「フリートークプログラム」：10月7日（日）まで
「アンドロメダ銀河」
銀河系のとなりに位置し、中心に双子のブラックホールが見つかるなど、最近再び注目されるアンドロメダ銀河について解説します。
期 間：10月13日（土）～12月2日（日）
投影日：土日曜日の11時と14時

＜参加者募集＞

○こども観察会「秋の総合公園」
総合公園を歩きながら、秋の花や虫を観察します。
日 時：10月27日（土）13時30分～16時30分
場 所：平塚市総合公園
申 込：往復はがきに住所、氏名、学年、電話番号を記入し、10月15日までに申し込む。

☆：展示（無料）プラネタリウム（観覧料）

○：申込制 ◎：自由参加 無印：会員制

◎ろばたばなし
民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。
日 時：10月21日（日）(1)13時30分～ (2)15時～
場 所：展示室民家
参 加：自由

◎漂着物を拾う会
海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えたりします。
日 時：10月13日（土）9時30分～11時
場 所：平塚虹ヶ浜海岸
参 加：自由（初めての方は往復はがきで申し込む）

◎星を見る会「月を見よう」
月齢10.7の月の、迫力あるクレーターや海などの地形を望遠鏡で観察します。
日 時：10月27日（土）19時～20時30分
場 所：科学教室・屋上
参 加：自由

あなたと博物館 26巻 7号 通算299号 発行 平塚市博物館 2800

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>